

6. 経済学部「学位授与の方針」

経済学部は、所定の履修細則に従って卒業所要単位124を修得し、次の学修成果を達成した者に、「学士（経済学）」の学位を授与する。

1. 現代をよく生きることについて、キリスト教の教えをふまえた考察ができる。

聖書がもつ今日的意義を理解し、それらをふまえながら、現代社会の中でよく生きることについて、自分の考えを論じることができる。特に、経済社会における倫理に深い理解を示すことができる。

2. 高度な知的活動に必要な汎用的諸技能・能力及び英語力を活用できる。

高度な知的活動の基礎となる汎用的諸技能・能力（コミュニケーション力、論理的・批判的思考力、情報リテラシー、数理リテラシーなど）及び英語力を身につけ、活用することができる。特に、ものごとを論理的・批判的に考え、それを口頭や文章で表現することができる。

3. ものごとを広く多様な視点から認識し、異なる認識・思考方法や価値観に理解を示すことができる。

自己や世界を歴史・社会・自然など多様な視点から認識し、異なる認識や思考方法、異なる価値観に理解を示すことができる。特に、現代の経済社会が抱える課題について批判的で多様な視点を持つことができる。

4. 経済学に関して次の学修成果を示すことができる。

経済学科においては、以下の学修成果を示すことができる。

- (1) 国内外の経済状況を理解し、経済モデルなどを用いてその特徴を説明できる。
- (2) 統計データを活用して経済状況を分析できる。
- (3) 今日の経済の動きの歴史的背景を説明できる。
- (4) 東北地方の経済状況及び特徴を説明できる。
- (5) 今日の経済が直面している課題を見出し、改善策を考えることができる。
- (6) 経済社会についての様々な思想や理論の概要を説明できる。

共生社会経済学科においては以下の学修成果を示すことができる。

- (1) 経済学の基礎・応用知識を体系的に理解し、それを基礎に現代社会の諸問題を把握し、分析することができる。
- (2) 現代日本における人口減少・少子高齢化という未曾有の社会的趨勢について、経済のみならず、社会構造の変化や政策、市民活動という観点から多角的に理解し、分析することができる。
- (3) 人口減少・少子高齢社会に対応する新たな社会経済システムとしての「共生社会」の構築に向けた具体的な構想や提言をすることができる。
- (4) 国内外の不平等や経済格差、種々の差別の問題に対する関心と洞察力をもち、公正な社会と開かれた人間関係を志向することができる。

5. 課題を発見し、その解決のために学修成果を総合的に活用できる。

地域の課題をはじめとする様々な具体的課題を見つけ、それまで獲得した学修成果を総合的に活用することでその課題を解決することができる。特に、課題の発見と解決に経済学の専門知識や関連する学修成果を活かすことができる。